



令和4年8月9日

各位

会社名 大黒屋ホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 小川 浩平
 (コード番号:6993 東証スタンダード市場)
 問合せ先 財務経理部長 堀内 治芳
 (TEL 03-6451-4300)

令和5年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想及び 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社では、最近の業績動向を踏まえ、令和4年5月13日に公表いたしました令和5年3月期の第2四半期(累計)連結業績予想及び通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 令和5年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(令和4年4月1日～令和4年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益	四半期包括利益
前回発表予想(A)	百万円 9,550	百万円 217	百万円 169	百万円 △3	円 銭 △0.03	百万円 24
今回修正予想(B)	7,475	23	△45	△142	△1.21	△127
増減額(B-A)	△2,074	△193	△214	△139	△1.18	△151
増減率(%)	△21.7%	△89.4%	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (令和4年3月期第2四半期)	8,265	△24	△114	△180	△1.54	△179

2. 令和5年3月期通期連結業績予想数値の修正(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益	包括利益
前回発表予想(A)	百万円 19,780	百万円 801	百万円 705	百万円 237	円 銭 2.02	百万円 313
今回修正予想(B)	15,670	153	38	△190	△1.62	△155
増減額(B-A)	△4,109	△647	△667	△427	△3.64	△468
増減率(%)	△20.8%	△80.8%	△94.5%	—	—	—
(ご参考)前期実績 (令和4年3月期)	17,381	63	△98	△292	△2.50	△294

3. 第2四半期(累計)連結業績予想及び通期連結業績予想の修正理由

令和5年3月期の第2四半期(累計)連結業績予想及び通期連結業績予想につきましては、当社グループの根幹会社である株式会社大黒屋において、今期に入り渡航制限緩和による海外渡航者のインバウンド需要が見込めるものと予想していたことより、当初業績予想値を通期売上高19,034百万円(半期同9,267百万円)と想定しておりましたところ、昨今の想定を上回る不安要素、即ち、米国や欧州の金利引き上げ、IT関連銘柄の下落、金融市場の混乱、景気動向の不透明感、高額ブランド品の著しい相場下落、更に米中の台湾危機、中国

のロックダウンの継続による中国の景気の鈍化等の結果として同社の主力先である中国からのインバウンド顧客の増加が見込めず令和5年3月期当第1四半期決算短信に記載のとおり、同社売上高は3,650百万円と低迷し、特にリアル店舗売上が1,659百万円と大きく落ち込みました。かかる状況の回復には、今少し時間を要すると考え、更に新型コロナウイルス感染症第7波による国内感染者急増の影響から各店舗での客足が減少している現況を鑑みて、当初想定していた同社の店舗における海外渡航者通期売上高7,539百万円（半期同4,051百万円）を今般通期2,721百万円（半期同1,383百万円）及び国内顧客通期売上高4,812百万円（半期同2,179百万円）を通期3,925百万円（半期同1,839百万円）と下方修正すると共に、一方好調であるネット売上は通期2,560百万円（半期同1,152百万円）から2,843百万円（半期同1,246百万円）に、本部商品売上高は通期3,090百万円（半期同1,382百万円）から4,434百万円（半期同2,232百万円）に引き上げ、更に質収入他を通期1,031百万円（半期同503百万円）から1,000百万円（半期同492百万円）修正する事で上記連結売上高の予想値を算出しました。売上高の減少に伴い営業利益他各利益指標も下振れし、保守主義原則の観点から前回発表の予想値を下回る見込みとさせていただきます。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上